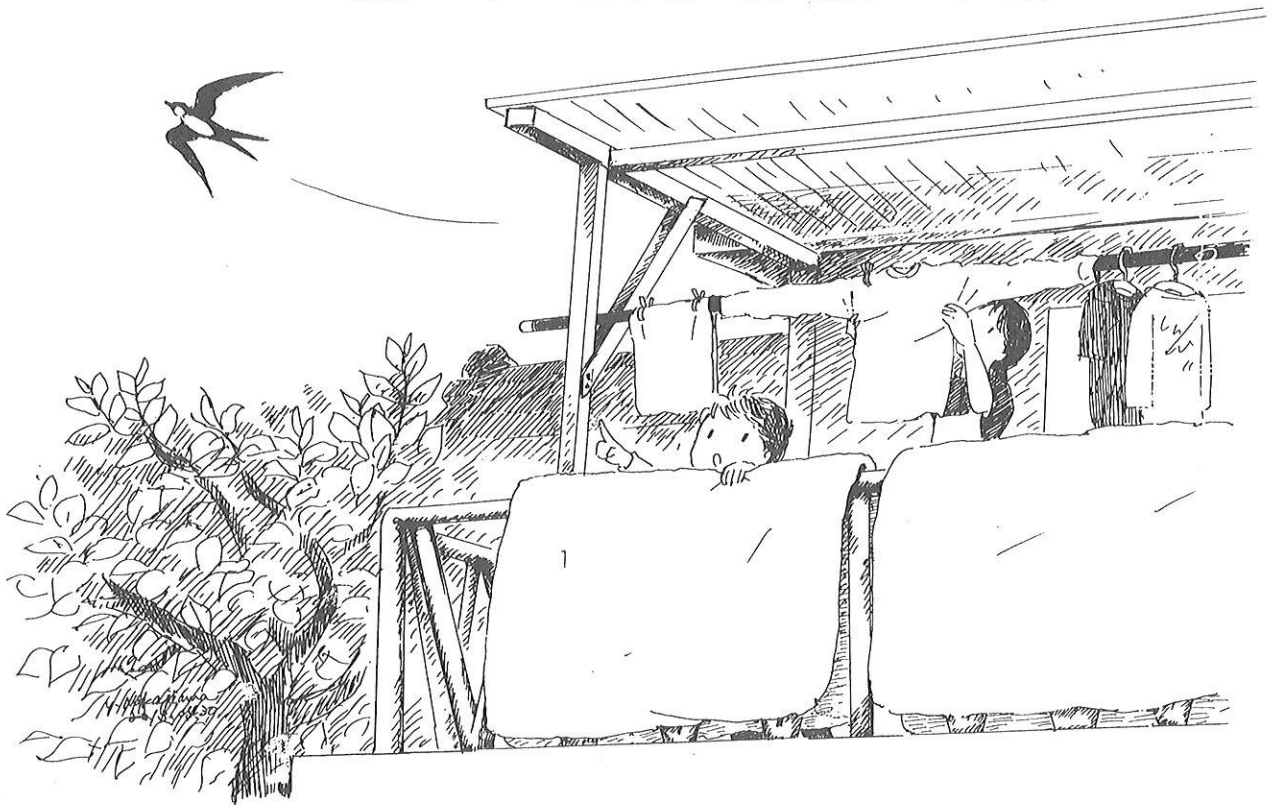


光の子



No.159 2013.6.20

●年間聖句 あなたの口を開いて弁護せよ。ものを言えない人を、犠牲になっている人の訴えを。(箴言31章8節)



「ツバメがとんでる」

挿絵・中島由起子

「光る」

大利根やいづれの草も芳しく

青き踏む一步前へと進むべく

風光るこころ挫けることはなく

歌のごとくにげんげんの野を残す

光の春光の子らにそれぞれに

のびやかに流れて利根の春深し

薫風は大利根の楽子ら育つ

落合水尾

〔浮野〕主宰

子どもたちの未来に光を見る

介護老人保健施設みゆきの丘施設長 仙道 富太郎

世間はアベノミクスと騒ぎ立て、景気の好転を予測しているが、人々の生活がより豊かな方向に向かっていくとはどうしても思えない節がある。規制緩和を唱えている人たちがまたぞろ勢いを増し、貧富の格差がさらに広がり、「自己努力」の名のもとに、弱者への援助の切り捨てが強まりそうである。

3・11東日本大震災の復興の足取りも極めて遅く、特に引き続いて起こった福島原発事故は収拾の糸口を全くつかめない状況である。原発事故のことで、私が最も懸念しているのは、このことで引き起こされた人々の心の闇についてである。過日、福島から山形に避難してきているお母さんから聞いた話だが、山形の人から「お嬢さんはかわいそうですわね。将来お嫁さんに行けなくて」と言われてショックだったと

あるときなにをおもったのか、子どもが台所に立っている母親のそばに寄ってきて、訊ねる、「私のこと、好き？」。思わぬ娘の問いに少しとまどいながらも、「うん、大好きだよ」と応じる。子どもは、「ふーん、そう」とか何とかいいながら、それで満足したらしく、離れていく。取り残された母親は「どうしたのかしら、あの子？」などと呟く。子どもは一瞬、自分という存在をめぐる小さな不安にとらえられたのだ。

「私のこと、好き？」という問いを発したのが恋人の場合だと「うん、大好きだよ」と応じただけではすまされない。次に「私のことがそんなに好きなの？」とたみかけてくる。「どこがって？全体だよ」などどつつつかえつつ答える。すると「全体？そんなの、答えになっちゃいない！」と返事のやり直しを命ぜられたりすることになる。どこまでも納得いく答えを求めてやまないのは、愛の不確かさに突き上げられているからに違いない。

これから書いてみたいことは、これらと似ていながら、少しく趣きを異にしている。10歳をこえたばかりの女の子の話だ。彼女は母

のことであった。

「何をそんな馬鹿なことを」と思うのだが、放射線が目に見えないものであり、正確な情報が政府から発表されていないことも追い打ちをかける形で、人々の思い込みは深まるばかりである。

こんな心の晴れない状況の中で、先日、とても嬉しいことがあった。私の教え子に武井寛君という整形外科医がいるが、彼は十数年前から、山形大学医学部の道場に、子どもたちを集めて、週二回柔道を教えている。このことは知っていたのだが、一度も練習の様子を見に行ったことはなかった。薄情な教師である。

ところが、私の都合で、今回、道場に出かけることになった。というのは、以前にも述べたと思うが、いま、フェイスブックを利用して被災地の子どもを支援するNPOの代表をつとめており、今度「子ども未来創生計画」というプロジェクトを始めることになり、その計画の一つに、「子ども放送局」の開設という項目がある。子どもたちに情報発信の機会を与える目的で、山形、福島、宮城の子どもたちにビデオカメラを渡し、いま子どもたちが考えていることや大切な想いなどを記録し、発表してもらおう計画である。

親にこう問いかけたのだ。「ねえ、ママ、私の名前、好き？」

「私のことが好き？」ではなく、「私の名前、好き？」である。二つの問いが根本的に違っているらしいことは誰にでも感じられよう。けれど、どこがどのように違うのかは、それほど明らかではない。こう問いかけた母親は、むしろ、「大好きだよ」と答える。けれど、その答えが子どもを満足させないことは、直観的にわかっている。子どもは母親の「大好きだよ」という答えが欲しいわけではないのだ。では、なにが欲しいのだろう。これを知るには、名前についてのいくぶんかの理解を必要とする。

名前は「生まれた」ということの意味とかかわっている。「生まれた」ということは、名づけられるということだ。自ら名づけるのではないのである。しかし、それだけでは「生まれた」ということの意味は十分とはいえない。名づけられたのちは、その名前でもって呼びかけられなければならない。それだけでなく「生まれた」ということにならない。

名づけられたのちは、その名前前で呼びかけられてはじめて存在



ねえ、ママ、私の名前、好き？

評論家 芹沢 俊介

この話が持ち上がったとき、私は、とっさに武井君が柔道を教えている子どもたちの方が頭に浮かんだ。というのは、武井君は常々、「我が国を良くするには、子どもの教育をしっかりやる以外にない。自分は柔道を介して、立派な大人になる子どもたちを育てていくのだ」と言っており、彼独特の方針で柔道を指導していると聞いていた。そのように育てられている子どもたちなら、きっと素晴らしい子ども番組を作ってくれるのではないかと思ったのである。つまり、武井道場に私たちのプロジェクトに参加してくれる子どもを探しに出かけたのである。ところが、道場の入り口のドアを開けた時、そんなまろみなど打ち砕かれてしまうほどのインパクトを受けた。

大人から子どもまで、道場に集まっている人間の数が、いかにも多いのである。むんむんとした人いきれとはまさにこんな状態を言うのである。その日は寝技だけがカウントされるという特別な形式で試合をしていたが、低学年の小学生から、医学部の学生まで、くんずほぐれつの大格闘であり、女の子が、同じ年恰好の男の子を寝技で一本をとる様子もあり、興奮して試合を眺めていた次第。

親にこう問いかけたのだ。「ねえ、ママ、私の名前、好き？」

「私のことが好き？」ではなく、「私の名前、好き？」である。二つの問いが根本的に違っているらしいことは誰にでも感じられよう。けれど、どこがどのように違うのかは、それほど明らかではない。こう問いかけた母親は、むしろ、「大好きだよ」と答える。けれど、その答えが子どもを満足させないことは、直観的にわかっている。子どもは母親の「大好きだよ」という答えが欲しいわけではないのだ。では、なにが欲しいのだろう。これを知るには、名前についてのいくぶんかの理解を必要とする。

名前は「生まれた」ということの意味とかかわっている。「生まれた」ということは、名づけられるということだ。自ら名づけるのではないのである。しかし、それだけでは「生まれた」ということの意味は十分とはいえない。名づけられたのちは、その名前でもって呼びかけられなければならない。それだけでなく「生まれた」ということにならない。

名づけられたのちは、その名前前で呼びかけられてはじめて存在

となる。けれど、それで終わりではない。名づけられ、呼びかけられる存在が、自分と一つになるという仕上げが待っている。名前にあって、自分が自分になることである。ここまで記せば、少女の「私の名前、好き？」という問いの発せられる場所がみえてくるだろう。

名づけられた名前、呼びかけられる名前、自分が自分に呼びかけられる名前、どれも同じであるはずなのに、どこかぴたりと一つに重ならない、そうした隙間やずれを起源としている。名前において、自分が自分になるということがまだしっくりこない、そのような微細な違和の感覚にとらえられているという状態を、彼女の問いは伝えようとしているのではないか。

大人になるところは、こうした繊細さを放棄することだ、そう言ういたくなる大人の自分がいるのである。



「共育ちカンガルー日記」

(24) 潮風の通園路

近藤みちる

春の訪れと共に、幼稚園の新たな一年がスタートした。今日は始業式。麗らかに晴れた空の下、私はユキと手をつなぎ、潮風の吹く通園路をゆつくりと歩き出した。ここから見える四月の海は穏やかに煌めき、春霞の彼方に大きな半島がぼんやりと浮かんでいた。春休みを挟んで2週間ぶりの登園だったが、新学期を心待ちにしていたユキの足取りは軽かった。

園までは大人の足で7、8分程度の距離である。今ではユキと歩いても15分ほどで着くようになったが、半年前、幼稚園に通い始めた頃は、実に30分以上もかかった。5歳になっても抱っこ癖の抜けないユキは、慣れない通園路や幼稚園生活への不安も相まって、抱っこばかりをせがんでなかなか歩いてくれなかった。この抱っこ癖は、私がつけてしまったようなものだ。よちよち歩きの頃はどの子もみな好き勝手に歩き回るので、危なくて目が離せないものだ。だが、ユキの場合はいくつになってもそのまんま、ちよつと目を

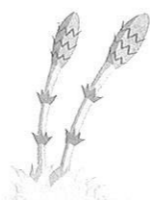
離した隙に一瞬でいなくなってしまうし、いきなり車道に飛び出してしまおうとした、迷子や交通事故の心配が尽きなかった。そんなユキを外に連れ出すには、抱っこしてしまおうのが何より安全で安心だったのだ。幼稚園が決まったとき、私はこれを機に、この抱っこ癖から親子で卒業しようと心に決めた。いつまでもユキを赤ちゃん扱いしているわけにはいかない。幼稚園の次は小学生になるのだ。目的地まで自分の足でしっかりと歩き切ることを覚えなければいけない年齢だ。

「幼稚園は歩いて行きます。」初登園の日、私はユキに何度も言い聞かせ、どんなにせがまれても頑として抱っこの要求に応じなかった。ユキは鞆や帽子を放り投げて、道端に座り込んだり寝転がったりと、強固に抵抗した。車は通るし人目はあるので、ユキの要求に折れて抱っこしてしまおう方がよほど楽だったが、私は決して屈しなかった。 「大きなお船が見えるよ！」次の日陰まで競争しよう！」手を交え

品を変え、なんとかユキに歩いてもらおうと必死だった。歩く楽しさも知って欲しかった。影踏みやけんけんを教えたり、縁石を平均台代りにして歩いてみせたり。歌いながらリズムに歩調を合わせて歩くと、ユキも私も自然に笑顔になった。そんな試行錯誤の中で、いつの頃からかユキは重たいカバンを自ら背負って、家から園までの道のりを、しっかりと自分の足で歩いてくれるようになっていた。幼く見えた足どりも、今では随分と力強くなった。

春を迎えた通園路には、あちらこちらにたんぼが咲いていた。園の門をくぐると、園庭には春の光と風が溢れ、何人かの園児たちが元気いっぱい走り回っていた。ユキは今日、年長クラス「たいよう組」に進級する。ユキの正式入園を受け入れるに当たって、園は柔軟な対応を図ってくれた。原則は進級時に担任の交代と教室の移動を行うのだが、ユキのクラスに限り担任の交代も教室の移動も無しとしてくれたのだ。クラス替えもないので、ひまわり組時代と同じクラスメイト、同じ先生と同じ教室という、慣れ親しんだ環境のまま進級を迎えることとなった。変化が苦手なユキにとって、これは何より有り難い配慮だった。

みちる



先日、コンビニでタバコを買った。

「ピースライトをワンカートン。」と頼むと、若い男性店員がすぐうしろの棚から、10個入りのピースライトを出してくれた。 「そのパネルをタッチしてください。」

中島 陸雄

タバコ

そう言われて、脇にあったパネルに左手でタッチした。そしてお金を払ってオケーである。 つまり、あのパネルにタッチすることは、私は未成年ではありませんですよ」ということの申告になるのである。これで、タバコを売った側の店の人にとっても、決して未成年の人には売りませんでしたよ」と、説明できる仕組みなのである。

しかし私はいつも思う。私はもちろん、未成年ではないからかわらないが、もし、19歳の青年があるのパネルをタッチしたら、あの機

械に、「この人は未成年だ」ということが見抜けるのだろうか。

恐らく、それは見抜くことができないのだと思う。19歳の青年が、ウソを承知でパネルをタッチしたならば、それは買った青年が悪いのであって、売る側の店の人には責任がない、ということになるのかもしれない。

「この人は怪しいな」と思える人が買いに来た時に、 「免許証や、年齢を証明できる物を見せてください」と言うのだろうか。

その点、私はどう見ても20歳をはるかに越えているから、気が楽である。 ある時、少し知り合いになっていた店の人の所でタバコを買った。「そのパネルにタッチしてください」

例の如く声がかかった。「はい。私は4回目の成人式が近いんですから、4回タッチするんですか？」 と、ふざけてみた。店の人も、「ワッハッハ。それは……」と笑っていた。

そう、以前、こんなことがあった。 或る催し物の会場入り口で、70

歳以上の方、或るいは身体障害者手帳をお持ちの方は、入場料はいただきません、というような説明が書かれていた。

私が、入口の所で、70歳以上の年齢であることを示すために、自動車運転免許証を出そうと思って、モノモノしていると、 「いや、結構です。どうぞ。」と、あっさり会場へ入れてもらった。

別に証明はいりません。顔を見ればわかりますよ」ということなのだろう。しかし、大変能率的で良いのだが、こちら側としては何となく???という感じがして、苦笑いしてしまった。

タバコと言えば、こんなことがあった。 親友のSさんたちと、或る会議に出た。Sさんはタバコ大好き人間である。いつものように会議が進み、休憩時間になると、何人かのタバコ好きの人は、いつの間にか喫煙所に集まってくる。もちろんSさんも、その常連の一人である。

私はSさんの所へ行つて、こんなことを言う。 「Sさん、タバコ一本くれる？」 Sさんは、快く一本抜いてくれて、

組だった教室の表札は「たいよう組」と改められ、ユキは新しい表札を指でさして確認し、安心したようだった。そして私に向かつてひとこと「たいようぐみで、おとうぼんやります！」と言った。

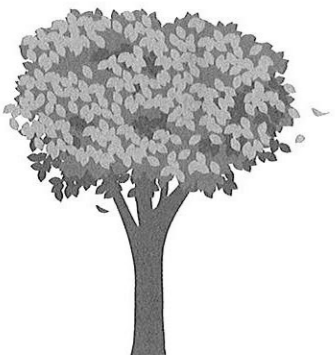
驚いたことに、ユキは教室の入り口で私に手を振ってみせた。ひまわり組の時は、私も一緒に教室に入つて朝のお支度を手伝っていたのだが、今日からは私の助けは借りず、自分でやる気になったようだ。教室の外から様子を見てみると、ユキは一人で教室に入って行き、新しいロッカ1の場所や座席をお友達に教わり、先生の声かけに応じて朝のお支度を始めた様子。どうやら、ここでの母の出番は、もうなくなったようだ。ユキの背中が少しだけ遠く見えた。(がんばれ、たいようぐみさん!) 私は心の中でユキにエールを送った。そしてなんだか急に手持無沙汰になってしまった気がして、足早に園を後にした。

帰り道、少しだけ立ち止まって海を眺めた。春を迎えた通園路に、潮風が満ちていた。ユキと私がここで迎える初めての春である。

よく弾むシュー春のうごき出すライターで火をつけてくれる。そこで私は言う。 「Sさんね、もらつてこんなことを言うのもなんだけどね、タバコを自分で買うようじゃあダメだよ。オレみたいに、人にもらつて吸うようにしないと、金は溜まんなんだよ。」

例によってふざけているな、と思つてSさんは、 「あ、そう。じゃあ、うんと金が溜まつたんべね。」 私もこれに答えて言う。 「そう、うちは金が溜まって溜まってね、コタツのまわりに一万円札が散らかつて、邪魔でしようがないんだよ。鼻紙に使うには、硬くってダメだしね。」

呆れ顔のSさんとはしばらく談笑して、また会議の続きに入る。 ここではタバコを吸う人は誰もいない。



プリズム

子どもたちの季節 仙道家

すっかり暖かくなり、子どもたちも進入学・新学期を迎えました。それぞれ「筆記具が無い!」「久しぶりだから、どこに置いたか忘れた!」等と慌ただしく準備をする中、仙道家に嬉しい出来事がありました。小学生の英俊が仲間入りしたのです。

入所初日こそ、「おとなしいな。緊張してるな」と感じましたが、今は4、5人と戦いごっこや球技を楽しみ、賑やかすぎるほどです。不思議な敬語を使い、そわそわふらふらとしている姿は親しみやすく、それでいて「野球習いたいっす」と力強く主張する英俊。今後、どういふ成長を見せてくれるかが楽しみです。

また周りの子どもたちも「英俊くん、どこ行った?」「英俊くと遊ぶ」と常に行動を気にしています。正太郎に至っては寝言で「英俊くん!どこ?」と絶叫。隣で寝る私や理子を怯えさせたほど

です。

時にはケンカをすることもありますが、この出会いをみんなが大切にできるようお願い、微力ながら手助けしていきたいと思います。

和田 優右子



光の中で

佐藤家

春たけなわの今日この頃、皆さまがお過ごしでしょうか。色とりどりのチューリップが咲き並び、暖かい風に吹かれながら健気にそこに咲いているのを見ると、とても切なくて温かい気持ち

季節のおとずれ

竹花家

早くも運動会を迎えた竹花家の小学生たちは、今年も目いっぱい活躍を見せてくれました。徒競走では、結果は振るわなかったものの、最後まで思いつきり走る姿に感動を覚えました。一つのことには一生懸命になっている子どもたちの姿は、それだけで十分

まわりを感動させるに値するものなんだと、改めて思いました。子どもたちが息を切らして頑張っている汗の跡を見れば、見られるのは、何にも代えられない私たちの特権なんだと感謝したくなりま

新吉屋 健太

低学年、楓のキレのあるダンス。高学年、冬子の力強い組体操。この日のために毎日のように学校で練習を重ねてきた二人は、自信満々でそれぞれの演技を終えました。たくさんさんの良い写真を残して

これから暑い夏を迎えます。子どもたちはプールが始まるとあつという間に真っ黒に日焼けします。夏もたくさんさんの思い出と、たくさんさんの良い写真を残すことでしょうか。うーん、楽しみだなあ!!

鈴木 洋一



原田家日記

新しい年度が始まり、子どもたちは一つずつ学年が上がりました。そして私も倉澤家から原田家へと生活の場が変わりました。この環境の変化を子どもたちと一緒に楽しんで行きたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

さて、今回の原田家日記では、食事中の出来事についてお知らせしたいと思います。

先日、食卓に卓上にある食材でダジャレを言ったところ、小学生の智司や佳織が、ここぞとばかりに持ちネタを口にすることがありました。ダジャレを必死にひねり出そうとする姿を見て、思わず面白おかしく笑ってしまいました。その中で、すごく驚くべき出来事がありました。それは、まだ幼い陸がなんと……

「イルカはいるか?」「電話にでんわ。」とダジャレを口にしたのです。これには本当に驚かされました。こ

岩瀬 志穂

河のほとり

倉澤家



ある日キッチンで洗い物をして

いる私に、小学生の雅哉がドアの隙間から顔をのぞかせ、ニコニコしながら「のぎちゃん、ぼくとけっこんしてよ!」と衝撃の告白。生まれて30年になりますが、プロポーズなどされたことのない私にとつて、人生初のプロポーズ。記念すべき瞬間は突然に訪れました。私はドギマギしながら「うれしいけど、のぎちゃんと雅哉は年が離れたるし、雅哉が結婚できる年になつたら、のぎちゃんはおばさんになつてるよ。」と言うと、「年が離れてても、のぎちゃんがおばさんになつてもいいよ。」という返事。うーん、年の差婚も珍しくない近頃だけ……と思いつつながら「どうしてのぎちゃんと結婚し

たいの?」と尋ねると「うんとね、のぎちゃんが大好きだからだよ!」これには返す言葉もなく、ただただかわいと思うばかりでした。いつも怒ってばかりいる私を大好きだと言ってくれる雅哉は、なんと心が広いのでしょうか。毎日あれやれこれやれとばかり言っている自分を深く反省しました。

細瀬 野宜江



養育論の試み その12

菅原 哲男

隣る人8 はたらき

他人様の生んだ子どもを預かって育てるなどという、身の程知らずなはたらきを選択してしまった私たちの、はたらきについて考えてみる。

筆者は30年ほど前、「職場で子どもは育たない」という一つのテーマを光の子どもの家で実現しようと思念した。児童養護施設光の子どもの家は、徹底して「子どものための子どもの施設」として立ち上げ運営しようとしたのである。私たちがはたらきのために建てられたものではないことを徹底すると決意したのである。それは、半世紀になんなんとする筆者の公の人生のほとんどを、子どもたちの不幸で生業をたててきているからである。

しかし、ここではたらく人たちに、はたらきへの反対給付は不十分ながらしてきた。はたらきへの給付があることは、労働の概念の中心命題である。はたらいた分だけ反対給付があるという職場の論理である。しかし、はたらいた分の支払いがないならばたらくかない、という条件では子どもを育てるには不十分なのである。職場で子どもは育たないとい

うもう一つの裏付けが必須である。だから児童養護施設は職場でしかないとはいえないと心して来た。反対給付がなければ何もならないという、貧しい状況で子どもはよりよく育たない。

人間関係はすぐれてヴォラタリズムによっている。イヴァン・イリイチ風によればヴァナキュラーなシヤドワークなのだろう。貨幣価値に還元できないはたらきが子育てには不可欠なのである。

親が子育てについて反対給付がなければいられないだろうか。そんなことをしたくない親たちも近年増えては来ているが、それでいいとは思っていない。

もちろん光の子どもの家には職場性がある。だから可能な限り労働者の権利は守られなければならない。そのようにつとめて来た。

はたらき人たちが、喜んでシヤドワークをはたらくことが出来るような環境整備は運営に当たって第一義であるのだ。

子どもが育つ場面では、誰もが誠実であるように努め、心しなければ

ならない。誠実をまもって子どもが育っていくために、そうでなければならぬのである。

目の前にいるべき仲間がどこへ行ったか分からないような場面が光の子どもの家にはしばしばある。そんな時、彼はどこかできつと誠実にはたらくているに違いない、と信じようと呼びかけてきた。そうでなければ人を信じることの出来るような人格に子どもは育たないからである。

さて、一緒に住んで暮らすことを決意した異性同士が(同性同士もあるが)、暮らしているうちに子どもが生まれる。子どもは生まれるのである。れる・られるという徹底的な受け身ののだ。そして大人たちの間に何らかの事情が発生して、別々に暮らすことを決断することが増えている。子どもを連れて一人暮らしは出来ないことが多い。子どもの親たちが若ければ若いほど、どちらも子どもを引き取らない場合が多い。古典的にはこのような場合登場するのが児童相談所である。そして、知事の措置権という子どもたちにとって

は途方もないほどの強権が発動され子どもたちの児童養護施設の利用が始まる。

一緒に暮らすことを決意したのは子どもではない。分かれることを決意したのも親である。しかし、子どもが施設にはいる、という点から聞

のおろおろぶりが伝染してか、理

現場から

続・光の子らしく

岩崎まり子

若葉の頃は瞬く間に過ぎ、田植えのすっきり終わった水面を渡る風は、すっかり初夏の匂いです。皆様、お元気ですか。

新年度が始まって早いもので数か月が経ってしまいました。

理奈も高校生になり、だいぶ制服姿も馴染んできたように思いますが、

受験のプレッシャーも殆ど表現しなかつた理奈でしたが、入学前は、「理奈、友達できないかも……」と、不安を口に出すことがありました。「理奈と友達になりたくない人な

んて居ないと思うよ。」と言うと、「まり子さんはわかってない。」と不機嫌そうに言い、話題をそらしたりして、何となくのんびりとのほほんと生活しているように見えたり、感じたりしてしまう理奈ですが、確実に一歩一歩、自己覚知への道を進んでいるのだなあとしみじみ思ったりしていました。

実際に本格的な高校生活がスタートしてしまっていると、私などはただおろおろと心配することだけしかできないという、何とも情けない毎日です。

まず帰宅時間が遅いということ、で、おろおろしてしまいます。私

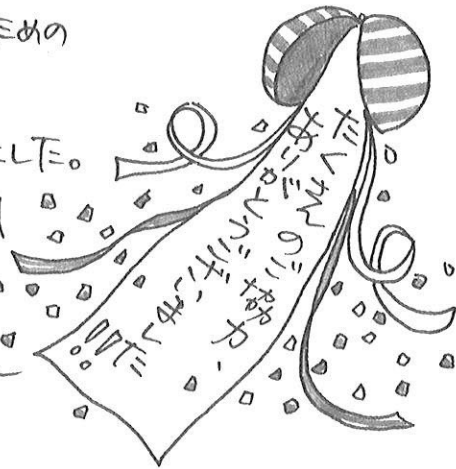


のおろおろぶりが伝染してか、理奈も、
「白い車に待ち伏せされたような、でもそれは勘違いのような……」
と言ったりし、そうなる私もいでもたつてもいられず、駅まで迎えに行つて二人で仲良く(?)帰ってきたりしました。でも、「お迎えとか恥ずかしいから。もう来なくていいよ。」
と言われてしまい、
「ごもつとも」と引き下がりがりながら、
「何で私は愚かなんだらう……」と思わずにいられます。

静かだけれど確実に刻まれていく卒業までの時。彼女の幸せを願うものの一人として何をすべきで何をすべきでないのか。愚か者は愚か者らしく、彼女の傍でおろおろしているしかないだろうと思う一方で、それでお給料をもらっていいいいのかとも思わせられ、本当にいつまでたつても中途半端なことしか考えられないことに申し訳なさばかりが募ります。
呼び方を、話し方を、関係性を少しずつ変えながら時を重ね、願わくばずっと見守り続けられるところに居たいと思うのです。
生きるもの全てのエネルギーの満ち溢れる夏は、すぐそこです。



今年もおかげまご基準外職員確保のための
 小さくとも大バザーを開催し、
 売上総額が561,120円となりました。
 たくさんのご支援、ご協力に職員一同
 心より感謝申し上げます。
 ~光の子ども家バザー実行委員会~



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

2013年2月~3月

- 2013年2月現在
 幼児5名 小学生17名 中学生8名 高校生7名 計37名
- 1日 故・田中春女元理事記念会
- 15日 東埼玉バプテスト教会木田靖浩牧師による夕礼拝
 説教奉仕感謝
 施設内研修 評論家芹沢俊介氏を講師としてお招き
 する 引き続いての研修の中で学びを深める
- 16日 聖学院大学ワーク 子どもたちと楽しく遊んでくだ
 ざる 感謝
- 16日 大阪から見学者の方々が来訪
- 24日 オペラ歌手坂井田真実子さまのご招待でオペラ鑑賞
 貴重な経験をさせていただく 感謝
- 25日 小学校との連絡会 今年度最後の連絡会で1年の振
 り返りと来年への課題の確認をする 感謝
- 25日 埼玉商人の会の皆さまが来訪見学
- 3月
- 11日 埼玉県公立高校受験合格発表 全員志望校合格の嬉
 しい知らせが届く 夕食は合格お祝い会でみんなで
 喜びを分かち合った
- 12日 若月健吾牧師による職員礼拝 司式説教奉仕感謝
- 15日 中学校卒業式 新たな進路を自分たちで勝ち取った
 彼らの3年間の頑張りに敬意
- 16日 第15回出発(たびだち)の会 青年となった2人のこれ
 からを応援する お世話になった多数の方々が来訪し
 共に見守ってくださる 心より感謝
- 22日 小学校卒業式 背すじを伸ばして卒業証書を受け取る
 姿がまぶしい
- 23日 幼稚園卒園式 楽しかった幼稚園とはお別れ あっと
 いう間に大きくなっていく子どもたちのたくましさ
 を思う
- 30日 第101回光の子どもの家理事会
- 31日 イースター礼拝
- <2月3月の物品寄贈者各位>
 ハムコ会 松本明子 後藤利子 横尾友子 中村久美子 高森
 夢佳 樋口まち子 片山和恵 福島章 株式会社カーブス古河
 店蓮田マイン店 市川千代子 森谷行男 森公子 境キリスト
 教会工藤 第一生命保険株式会社 富士見ヶ丘キリスト教会
 富田農園 松野節子 新井健夫 杉山和俊 岩瀬利美 ほか多数
 の各位様
 ☆新しい年度もどうぞよろしくお願ひいたします (洋)

/// // // // ———— 反 射 光 ———— // // // //

☆新しい年度を迎えた子どもたちは
 それぞれに入園、入学、進級して慣
 れない環境に戸惑いながらも頑張っ
 ています☆一人の人間がこの世に生
 を受けてそれぞれの環境で育ち社会
 の中で生きていく過程には、圧倒的
 な排他性が必要不可欠です。圧倒的
 な排他性、それは家という閉鎖的な
 性質を持った環境で培われる、子ど
 もにとつての隣人と子どもとのか
 けがえのない関係です。子どもはそ
 の排他性を経験して初めて社会との
 関係、排他性を破る社会性の獲得が
 できるのだといひます☆あえて親子
 の関係と書かないのは、この世に生
 を受けた子どもの血縁の親が、その
 事実のみで子どもにとつての隣人
 であるとは言えないような社会状況
 を鑑みてのこと。しかし血の繋がり
 無くしては、だれもこの世に生を受
 けないという揺るぎようのない事実
 を前にしてのことでもあります☆親
 子が別離して暮らさざるを得ない現
 実は、想像が決して追いつかない領
 域の事情を孕んで、子どもたちに立
 ちはだかります。この年度も私たち
 は子どもたちが安心して暮らし、豊
 かに生きていけるように願ひながら
 励みます。今後ともご指導ご協力の
 ほどよろしくお願ひいたします。(洋)